月刊都響
March 2025

ヤングシート

3/29 2025（土）

都響・八王子シリーズ

TMSO×Hachioji Series

会場：J:COMホール八王子

指揮／広上淳一
ピアノ／小林愛実

ベルリオーズ：
序曲《ローマの謝肉祭》op.9（約9分）

ラヴェル：ピアノ協奏曲 ト長調（約23分）

ビゼー：歌劇『カルメン』
第1・第2組曲より（約15分）

ラヴェル：ボレロ（約15分）

ホールでの過ごしかた

◎携帯電話や音の鳴るモノは電源を切りましょう。

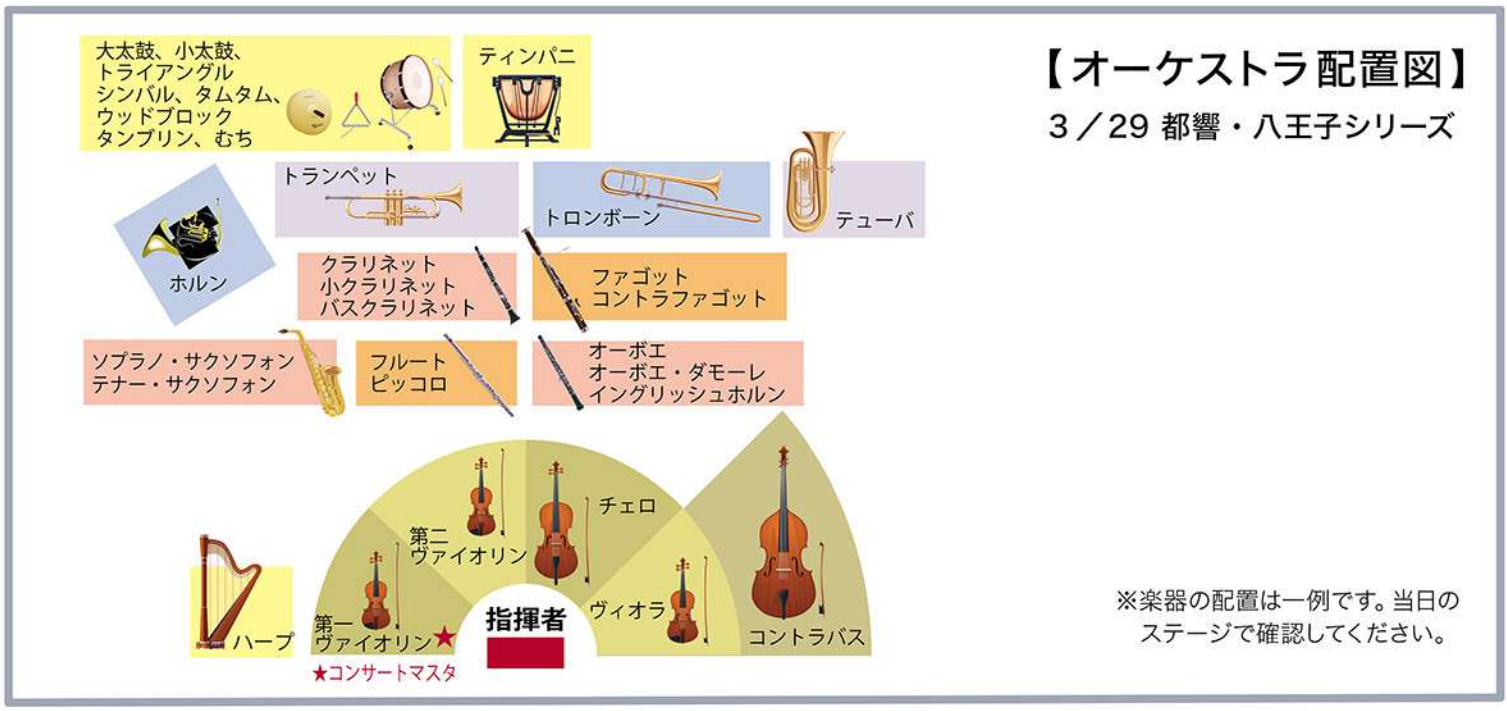
◎演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！ 周りの人も演奏を楽しみに来ています。

◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。終演後のカーテンコール時のみ写真の撮影が可能です。

東京都交響楽団

PROGRAM NOTES

今日のコンサートは、ダンス音楽の要素が盛りだくさん！ユニークなリズムや、カラフルな楽器の響きをお楽しみください。作曲したのは３人のフランス人作曲家たちです。



ベルリオーズ：序曲《ローマの謝肉祭》op.9

Hector Berlioz

「序曲」とは、もともとはオペラ（＝歌劇）やバレエなどの物語が始まる前に、オーケストラが演奏する音楽のことです。やがて序曲のみが演奏されたり、単独で作曲されるようにもなりました。この曲は、エクトル・ベルリオーズ（1803～1869）がオペラ《ベンヴェヌート・チェッリーニ》（イタリアの彫刻家の人生を描いた物語）の第２幕序曲として作ったものを、新たにオーケストラ作品として発表したものです。華やかな序奏に続き、イングリッシュホルン（コーラングレ）がほのぼのとした美しいメロディーを聞かせ、オーケストラ全体が麗しい音楽を奏でます。後半は、オペラの謝肉祭のシーンで用いられた賑やかな音楽となります。飛び跳ねるように元気なリズムは、「サルタレッロ」というイタリアの軽快な舞曲をもとにしています。

ラヴェル：ピアノ協奏曲 ト長調

Maurice Ravel

モーリス・ラヴェル（1875～1937）は「オーケストラの魔術師」と呼ばれるほど、さまざまな楽器の扱いが巧みで、オーケストラから色彩豊かなサウンドを引き出す才能がありました。このピアノ協奏曲は、世界中を演奏旅行で巡っていたラヴェルが、1931年に作曲しました。残念ながらラヴェルはこの頃から体調を崩し、これがオーケストラ曲として書き上げた最後の作

品となりました。

曲は３つの楽章で作られています。ピシャッと響く鞭の音（本物のムチではなく、２枚の板を打ち合わせて出す音）で開始する**第１楽章**は、スペイン的なメロディーやジャズ風のリズムに彩られる楽しい楽章です。**第２楽章**は、ピアノが長いソロをしっとりと聞かせます。ここでもイングリッシュホルンが活躍します。ドラムロールとトランペットの元気なモチーフで始まる**第３楽章**は、ピアノがスピーディーなパッセージで活躍し、オーケストラは軽やかなモチーフを生き生きと奏でます。

ビゼー：歌劇『カルメン』第１・第２組曲より

「前奏曲」「アラゴネーズ」「間奏曲」「トレアドール」「ハバネラ」「ジプシーの踊り」

Georges bizet

ジョルジュ・ビゼー（1838–1875）作曲の《カルメン》は、世界中でもっともよく上演されている人気のオペラです。スペインを舞台にした物語には、自由気ままな女性カルメン、彼女に恋する男性ホセ、勇ましい闘牛士のエスカミーリョといった人物が登場し、情熱的な音楽がドラマを盛り上げます。のちに、このオペラの中から印象的な曲が抜き出され、組曲にまとめられました。今日はその中から6曲聴いてもらいます。

やや重々しい〈**前奏曲**〉は、カルメンに振り回されてしまうホセの運命を思わせます。〈**アラゴラネーズ**〉はスペインのアラゴン地方の舞曲にもとづく３拍子の音楽です。〈**間奏曲**〉はハープとフルートが美しい音楽を導きます。シンバルが打ち鳴らされ、派手に始まる〈**トレアドール**〉では、オペラで闘牛士エスカミーリョが歌う有名なメロディーが用いられます。〈**ハバネラ**〉は舞曲のリズムをチェロが奏で、カルメンが歌う魅惑的なメロディーが登場します。〈**ジプシーの踊り**〉は、カルメンと仲間たちが賑やかに踊る場面の音楽で、次第にテンポを速めて盛り上がりを見せます。

ラヴェル：ボレロ

おしまいは、ラヴェルがバレエのために作曲した《ボレロ》です。とある酒場で一人の踊り子が踊り始めると、やがて他のお客たちもステップを踏み始め、全員で情熱的に踊る情景を描いたバレエです。ラヴェルはダンサーのイダ・ルビンシテインからリクエストを受けて、1928年にこの曲を作りました。

もともと「ボレロ」とは、スペインに起源をもつダンス音楽です。その独特なリズム（タンタタタ・タンタタタ・タッタッ｜タンタタタ・タンタタタ・タタタタタタ）を小太鼓が静かに打つところから、曲は始まります。やがて２種類のメロディーが登場し、フルート、クラリネット、ファゴット、小クラリネット、オーボエ・ダモーレ、トランペット、サクソフォン…というように楽器から楽器へと受け渡され、じわじわとボリュームを上げて奏でられます。最後はオーケストラ全体が力強く鳴り響き、クライマックスを迎えます。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

PROFILE

© Masaaki Tomitori

指揮

広上淳一 Junichi HIROKAMI, *Conductor*

東京生まれ。尾高惇忠にピアノと作曲を師事、音楽、音楽をすることを学ぶ。東京音楽大学指揮科卒業。1984年、第１回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールで優勝。以来、フランス国立管弦楽団をはじめとする国内外のオーケストラに客演。オペラのレパートリーも豊富。現在、オーケストラ・アンサンブル金沢アーティスティック・リーダー、日本フィル　フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）などを務める他、東京音楽大学で教授を務めるなど後進の指導にもあたっている。

© Yuki Kumagai

ピアノ

小林愛実 Aimi KOBAYASHI, *Piano*

2021年10月、第18回ショパン国際ピアノ・コンクール第４位入賞。1995年山口県宇部市出身。３歳からピアノを始め、７歳でオーケストラと共演、９歳で国際デビューを果たす。カーティス音楽院（フィラデルフィア）で、マンチェ・リュウ教授のもと研鑽を積んだ。これまでに、トゥガン・ソヒエフ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団など国内外における多数のオーケストラと共演。CDも多数リリースしており、2024年11月、最新CD『シューベルト：４つの即興曲op.142／ピアノ・ソナタ第19番 他」をリリース。

東京都交響楽団

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra, *Orchestra*

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立し、2025年に創立60周年を迎えました。都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

東京文化会館（上野）を本拠地としてサントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動を展開しています。2021年7月に開催された【東京2020オリンピック競技大会】開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。

© Rikimaru Hotta

https://www.tmso.or.jp/

都響ヤングシートは、企業や団体からご支援をいただき、サントリーホールでのプロムナードコンサート、東京芸術劇場での定期演奏会Cシリーズなど、休日昼間の都響主催公演を中心に青少年をご招待し、オーケストラコンサートをお楽しみいただいています。ご支援企業については月刊都響をご覧ください。